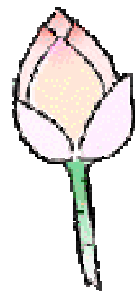


# 天目



## 「老人六歌仙」から学ぶ

命ある者は皆生まれてからすぐに老い始めます。時は常に過ぎ、我々は老いを経ての死と切っても切れない生き方を模索しています。博多の聖福寺一二三世仙厓禅師の「老人六歌仙」（出光美術館蔵）は、実に軽妙に老いる苦しみを表現しています。

### 「老人六歌仙」

しわがよる ほくろが出来る 腰曲まがる 頭がはげる ひげ白くなる 手は振う  
脚はよろつく 歯はぬける 耳はきこえず 目はうとくなる 身に添うは頭巾  
襟巻 杖 眼鏡 たんぼ（湯たんぼ） をんじやく（石を火で熱くして体を暖めるもの）  
じゅびん（尿器・尿瓶） 孫の手 聞きたがる 死ともなかる（死にたくないとおもう）  
愚痴になる 出しゃばりたがる 世話やきたがる くだくなる 気短になる  
寂しがる 心はまがる 口よだれくる またしても同じはなしに 子を誉める  
達者自慢に人はいやがる

これは「生と死は同一で、そのなかに老いや病がある。」という生きることの真理を説いています。

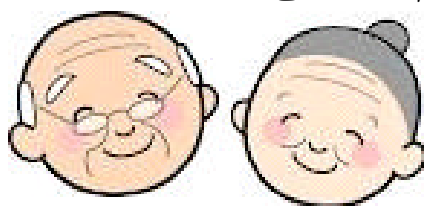
以前人気を博した百歳の姉妹、きんさんぎんさんは沢山稼いだ報酬の使用目的を聞かれ「老後の為の貯蓄」と愛嬌交じりに答えたそうです。百歳の長寿者から出たその言葉は、今を精一杯生きる楽しさを我々に教えてくれます。

老苦からの脱却とは、様々な老いから目を背けず、あるがままに受け止め、その上で自身がどうあるべきか、どう生きるか、どう生きたいかという心を常に明らかにし、今この時を精一杯生きる事なのです。

お寺や仏壇・お墓へのお参りは、自分の心を明らかにする絶好の機会です。どうぞ大いにお参り頂ければと思います。

茨城県土浦市 向上庵副住職 三ツ井修司

※建長寺派布教師の若手ホープ三ツ井和尚様に、今号の原稿を執筆していただきました。



## 知っていますか？ 仏様のこと ⑤六地藏

たより9号でお地藏様の解説をしました。同じくらいよく目にする六地藏様。栖雲寺の境内にも檀家様が寄付してくださった六地藏様（左写真）があります。では、お地藏様とどう違うの？何で六体あるの？

人間は死後「地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人道、天道」の世界の間で、生まれ変わり死に変わりを繰り返す（六道輪廻）とされています。でも実は現世に生きていても、この六道は心の状態として繰り返されているのです。死後に限ったことではないのです。

**地獄** 罪深い人が落ちる。最も悪く厳しい世界で、償いばかりの日々。

**餓鬼** 欲深い人が落ちる。物・金・地位どれだけ手に入れても満足できない心。

**畜生** 動物同様本能のみ。どれだけの恩にも愚痴ばかり言いつて感謝できない心。

**修羅** 争いばかりの世界。笑って過ごせる様な些細なことでもすぐ争いになる。

**天人** 通常の状態だが、四苦（生老病死）の苦しみから逃れられず悩み続ける。

**天人** 天人が住む世界。心が晴れて最高の状態。一番よい世界の様に思えるが、他の五つの世界への生まれ変わりに怯え、また悩みも多い。

「自分はそのようなことない」なんて他人事に思っていますか？でもみなさん、自分の日常をよく思い返してみてください。いつだって、大なり小なりこの六つの心を繰り返しているはず。そんな悩み多き六つの心の状態から救ってくださるのが六地藏様。六地藏様に一心に手を合わせ信仰すれば、六道を超越した安らぎの心を手に入れることができる、六地藏様はそんなすごい仏様なのです。三ツ井和尚様のお言葉にもあるとおり、心を明らかにするため、どうぞ六地藏様にお参りください。



## 天目山坐禅会

近年坐禅ブームなどとも言われております。栖雲寺でも坐禅会を希望する団体が徐々に増え、八月は四件、九月も三件ありました。

一緒に栖雲寺本堂で坐禅を組み、心静かな一時を味わって見ませんか？日程にもよりますが極力お受けいたします。少人数でも構いませんのでお気軽にお問合せください。

大人500円、学生300円

※最低でも一時間以上は必要です。

## 宝物風入れ展

毎年恒例の栖雲寺寺宝一挙公開

十月二十七日（土）二十八日（日）

午前九時～午後四時まで

本年は鎌倉建長寺の管長様が所有する禅画を多数特別展示します。

## 報告

私事で恐縮ですが、八月十四日に次男が誕生しました。名前は海悠（みはる）です。三歳になった長男悠真（はるま）共々よろしく御指導をお願い致します。